



方針管理表記規則マニュアル

ARIS Risk & Compliance Manager

バージョン 9.7 SR 3

2015 年 4 月

This document applies to ARIS Version 9.7 and to all subsequent releases. Specifications contained herein are subject to change and these changes will be reported in subsequent release notes or new editions.

Copyright © 2000 - 2015 [Software AG](#), Darmstadt, Germany and/or Software AG USA Inc., Reston, VA, USA, and/or its subsidiaries and/or its affiliates and/or their licensors.

The name Software AG and all Software AG product names are either trademarks or registered trademarks of Software AG and/or Software AG USA Inc. and/or its subsidiaries and/or its affiliates and/or their licensors. Other company and product names mentioned herein may be trademarks of their respective owners. Detailed information on trademarks and patents owned by Software AG and/or its subsidiaries is located at <http://softwareag.com/licenses>.

Use of this software is subject to adherence to Software AG's licensing conditions and terms. These terms are part of the product documentation, located at <http://softwareag.com/licenses> and/or in the root installation directory of the licensed product(s).

This software may include portions of third-party products. For third-party copyright notices, license terms, additional rights or restrictions, please refer to "License Texts, Copyright Notices and Disclaimers of Third Party Products". For certain specific third-party license restrictions, please refer to section E of the Legal Notices available under "License Terms and Conditions for Use of Software AG Products / Copyright and Trademark Notices of Software AG Products". These documents are part of the product documentation, located at <http://softwareag.com/licenses> and/or in the root installation directory of the licensed product(s).



目次

1	はじめに.....	1
2	本マニュアルの内容	2
2.1	目的および範囲	2
3	ARIS 表記規則	3
3.1	ユーザーとユーザー グループの作成	3
3.1.1	役割と要員の割り当て	5
3.2	方針の定義の作成.....	7
3.2.1	ビジネス コントロール図	7
3.2.2	プロセス モデル	16
3.2.3	ビジネス ルール アーキテクチャ図	17
3.3	オブジェクトと関係の非アクティブ化	17



1 はじめに

方針の定義の作成を簡易化し、再利用性を実現するために、ARIS でオブジェクトをモデル化できます。ただしこれは、ARIS Architect でのモデリングのメソッドおよび機能の規則と表記規則が順守されている場合のみ実行できます。これらのルールに従った場合にのみ、すべてのモデル化されたデータは ARIS Risk & Compliance Manager (ARCM) に転送されて、再利用することができます。



2 本マニュアルの内容

以下の各セクションでは、説明ビュー、モデル タイプ、オブジェクト タイプ、関係タイプと接続線タイプ、および属性の使用に関する標準を説明します。

2.1 目的および範囲

目的: モデリング ガイドラインの仕様設計

本マニュアルに含まれないもの: ユーザー文書

3 ARIS 表記規則

3.1 ユーザーとユーザー グループの作成

ユーザーおよびユーザー グループは、[要員] (OT_PERS) および [役割] (OT_PERS_TYPE) のオブジェクトを使用して ARIS Business Architect の組織図でモデル化されます。

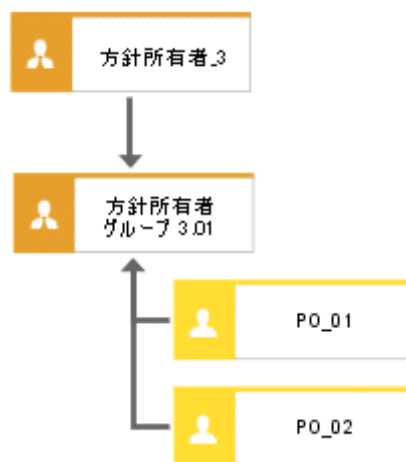


図 1: ユーザーおよびユーザー グループの構造 (組織図)

上位役割 [方針所有者_3] によって、ARIS Risk & Compliance Manager では下位役割が果たす役割が指定されます。これらの役割は、[汎化結果である] 接続線を使用して接続されます。「方針所有者グループ 3.01」は「方針所有者_3」の汎化の結果です。作成されるグループの役割とレベルは上位役割名により定義されます。<役割>_<レベル>、つまり、方針所有者_3 > 役割: 方針所有者、レベル: 3 (またはオブジェクト固有) で定義されます。ユーザー グループは、上位役割 (方針所有者_3) に対して ARIS Risk & Compliance Manager で生成されません。

以下がさまざまなレベルに適用されます。

- レベル 1: クライアント汎用
つまり、権限が複数クライアントに割り当てられます。
- レベル 2: クライアント固有
つまり、権限が特定のクライアントに割り当てられます。
- レベル 3: オブジェクト固有
つまり、方針、リスク、または統制などの特定のオブジェクトに権限が割り当てられます。

上記の例では、[方針所有者グループ 3.01] ユーザー グループは、[方針所有者] の役割およびレベル「3」(オブジェクト固有の権限) を使用して ARIS Risk & Compliance Manager で生成されます。また、ユーザー ID「PO_01」と「PO_02」のユーザーが作成されます。

役割名 (ARCM) と役割 (ABA) の対応一覧

次の割り当ては、ARIS Risk & Compliance Manager での役割と ARIS Architect で使用される名前に適用されます。その他の役割については、他の表記規則マニュアルで説明しています。



役割 (ARCM)	役割 (ABA)	注意
roles.policyauditor	方針監査人	レベル 1、2、および 3
roles.policymanager	方針管理者	レベル 1 および 2
roles.policyowner	方針所有者	レベル 3 のみ
roles.policyapprover	方針承認者	レベル 3 のみ
roles.policyaddressee	方針受取人	レベル 3 のみ



3.1.1 役割と要員の割り当て

役割 (ABA) とユーザー グループ (ARCM) の割り当て

次の割り当てを [役割 (ユーザー グループ)] オブジェクトに適用できます。

ABA 属性	API 名	ARCM 属性	M*	注意
名前	AT_NAME	name	○	ユーザー グループ名は最大 250 文字に制限されています。
説明/定義	AT_DESC	description	-	
役割	-	role	○	[役割] と [役割レベル] の値は、上記のとおり指定されます。
役割レベル	-	rolelevel	○	
ユーザー	-	groupmembers	-	[ユーザー] は要員と役割間の [実行する] 接続線によって指定されます。

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

要員 (ABA) とユーザー (ARCM) の割り当て

古いモデル作成の規則に基づいた既存のデータベースは、提供されている ARCM user migration.arx レポートを使用して移行できます。姓と名の 2 つの属性は同じ属性から派生するため、結果を確認する必要があります。

次の割り当ては [要員 (ユーザー)] オブジェクトに適用できます。

ABA 属性	API 名	ARCM 属性	M*	注意
ログオン	AT_LOGIN	Userid	○	ユーザーのユーザー ID は最大 250 文字に制限されています。
名	AT_FIRST_NAME	firstname	○	



ABA 属性	API 名	ARCM 属性	M*	注意
姓	AT_LAST_NAME	lastname	○	
		name	-	姓と名の組み合わせ
説明/定義	AT_DESC	description	-	
電子メール アドレス	AT_EMAIL_ADDR	email	○	
電話番号	AT_PHONE_NUM	phone	-	
		clients	-	[クライアント] フィールドは、データのインポート先のクライアントによって指定されます。
		substitutes	-	[代理] フィールドは、手動でのみ設定されます。

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。



3.2 方針の定義の作成


3.2.1 ビジネス コントロール図

マスター データの管理を簡易化するために ARIS で方針の定義をモデル化できます。これには、[ビジネス コントロール図] モデル (MT_BUSY_CONTR_DGM) を使用できます。



3.2.1.1 オブジェクトと関係

方針管理のフレームワーク内で、次のオブジェクトを [ビジネス コントロール図] モデルで使用できます。

オブジェクト タイプ名	シンボル タイプ名	API 名	シンボル	ARCM 名
方針	経営方針	OT_POLICY		方針の定義
役割	役割	OT_PERS_TYPE		方針所有者、方針承認者、方針受取人、方針監査人 (選択した役割による)
リスク	リスク	OT_RISK		リスク
アプリケーション システム タイプ	アプリケーション システム タイプ	OT_APPL_SYS_TYPE		アプリケーション システム タイプ
組織ユニット	組織ユニット	OT_ORG_UNIT		組織
用語	用語	OT_TECH_TRM		規定





次の接続線を使用できます。

オブジェクト	接続線	オブジェクト	注釈
役割	技術的責任を持つ	方針	ユーザー グループを方針の定義に割り当てます。
リスク	減らされる	方針	方針とリスクの間に接続線を作成します。
方針	影響する	組織ユニット	方針と影響を受ける組織階層要素の間に接続線を作成します。
方針	影響する	用語	方針と影響を受ける規定階層要素の間に接続線を作成します。
方針	影響する	アプリケーション システム タイプ	方針と影響を受けるアプリケーション システム タイプ階層要素の間に接続線を作成します。

3.2.1.2 属性

次の割り当ては [方針] オブジェクトに適用できます。

ABA 属性	API 名	ARCM 属性	M*	注意
名前	AT_NAME	name	○	最大 250 文字まで。
説明	AT_DESC	description		



ABA 属性	API 名	ARCM 属性	M*	注意
方針タイプ	AT_POLICY_TYPE	policy_type	○	次の 2 つのオプションから選択できます： <ul style="list-style-type: none"> ▪ [確認が必要] (方針が公開された後に確認プロセスが開始されます) ▪ [公開のみ] (方針が公開されるとプロセスは終了します)
確認テキスト	AT_CONFIRMATION_TEXT	confirmation_text	(○)	方針タイプで [確認が必要] が選択されている場合にのみ必須です。
確認期間 (単位: 日)	AT_CONFIRMATION_DURATION	duration	(○)	方針タイプで [確認が必要] が選択されている場合にのみ必須です。
承認期間の開始日 (所有者)	AT_START_DATE_APPROVAL_PERIOD_OWNER	startdate		方針所有者の承認期間の開始。
承認期間の終了日 (所有者)	AT_END_DATE_APPROVAL_PERIOD_OWNER	enddate	○	方針所有者の承認期間の終了。
承認期間の開始日 (承認者)	AT_START_DATE_APPROVAL_PERIOD_APPROVER	approverstartdate	○	方針承認者の承認期間の開始。承認者に対して承認が生成されます。
承認期間の終了日 (承認者)	AT_END_DATE_APPROVAL_PERIOD_APPROVER	approverenddate	○	方針承認者の承認期間の終了。
公開期間の開始日	AT_START_DATE_PUBLISHING_PERIOD	publishingstartdate		公開期間の開始日。開始日が設定されていない場合は、公開期間は方針所有者による承認の直後に開始します。



ABA 属性	API 名	ARCM 属性	M*	注意
公開期間の終了日	AT_END_DATE_PUBLISHING_PERIOD	publishingenddate	○	公開期間の終了日。
エクスポート関連	AT_AAM_EXPORT_RELEVANT	-		この属性は、方針の定義を ARIS Risk & Compliance Manager にエクスポートするかどうかを指定します。
タイトル 1/リンク 1	AT_TITL1/AT_EXT_1	documents		
タイトル 2/リンク 2	AT_TITL2/AT_EXT_2			
タイトル 3/リンク 3	AT_TITL1/AT_EXT_1			
タイトル 4/リンク 4	AT_TITL4/AT_EXT_4			
ARIS 文書格納リンク 1	AT_ADS_LINK_1	documents		
ARIS 文書格納リンク 2	AT_ADS_LINK_2			
ARIS 文書格納リンク 3	AT_ADS_LINK_3			
ARIS 文書格納リンク 4	AT_ADS_LINK_4			

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。



ARIS Architect 9.5 の方針オブジェクトのその他の属性 (評価属性グループ)

ABA 属性	API 名	ARCM 属性	M*	注意
評価関係	AT_REVIEW_RELEVANT	reviewRelevant	○	方針に評価関係としてマークを付けます。
評価クティビティ	AT_REVIEW_ACTIVITY	activities	(○)	評価時に実行されるクティビティを説明します。方針に評価関係としてマークが付けられた場合、必須フィールドになります。



評価の頻度	AT_REVIEW_FREQUENCY	frequency	(○)	方針の評価を実行するインターバルが出力されます。 使用できるオプション： <ul style="list-style-type: none">▪ 単発▪ 日次▪ 週次▪ 月次▪ 四半期▪ 半期▪ 年次▪ 隔年▪ 場合に応じる 方針に評価関係としてマークが付けられた場合、必須フィールドになります。
イベント駆動の評価許可	AT_EVENT_DRIVEN_REVIEW_ALLOWED	event_driven_ allowed	(○)	方針にアドホック評価が許可されるかどうか出力されます。方針に評価関係としてマークが付けられた場合、必須フィールドになります。
評価実行期限（単位：日）	AT_REVIEW_EXECUTION_TIME_LIMIT	duration	(○)	方針所有者が評価を処理するために使用できる日数が出力されます。評価期間は評価の終了日で指定され、この日付までに評価を終了する必要があります。方針に評価関係としてマークが付けられた場合、必須フィールドになります。



方針評価の開始日	AT_START_DATE_OF_POLICY_REVIEWS	startdate	(○)	方針評価を生成する最初の日付が出力されます。方針に評価関係としてマークが付けられた場合、必須フィールドになります。
方針評価の終了日	AT_END_DATE_OF_POLICY_REVIEWS	enddate		方針評価を生成する最後の日付が出力されます。
統制期間の長さ	AT_AAM_TESTDEF_CTRL_PERIOD	control_period	(○)	方針評価が関連付けられている期間が出力されます。方針に評価関係としてマークが付けられた場合、必須フィールドになります。

*M 列では属性が必須項目であるかどうかが表示されます。




3.2.2 プロセス モデル

プロセス組織への接続線を作成するために、方針を次のプロセス モデルでモデル化できます。

モデル タイプ番号	モデル名
12	付加価値連鎖図
13	EPC
14	ファンクション割当図
18	PCD
50	EPC (マテリアル フロー)
51	PCD (マテリアル フロー)
134	EPC (列表示)
140	EPC (行表示)
154	EPC (テーブル表示)
173	EPC (水平テーブル表示)

3.2.2.1 オブジェクト、関係、および属性

プロセス モデルでは次のオブジェクトを使用できます。

オブジェクト タイプ名	シンボル タイプ名	API 名	アイコン	ARCM 名
ファンクション	(プロセス モデルによる)	OT_FUNC		プロセス
方針	経営方針	OT_POLICY		方針の定義

次の接続線を使用できます。

オブジェクト	接続線	オブジェクト	注釈
方針	影響する	ファンクション	方針と影響を受けるプロセス階層要素の間に接続線を作成します。



3.2.3 ビジネス ルール アーキテクチャ図

方針間の階層をモデル化するために、ARIS Architect 9.5 の次の接続線を [ビジネス ルール アーキテクチャ図] モデルで使用できます。

オブジェクト	接続線	オブジェクト	注釈
方針	包含する	方針	方針間の階層を表します

3.3 オブジェクトと関係の非アクティブ化

ARIS Risk & Compliance Manager のオブジェクトと関係は、変更を追跡できるようにするためバージョン管理されます。そのため、ARIS Risk & Compliance Manager のオブジェクトと関係は非アクティブにされ、削除されません。つまり、対応するデータ アイテムは非アクティブになり、データベースからは削除されません。

インポートによって ARIS Risk & Compliance Manager でオブジェクト/関係を非アクティブにするには、対応するように ARIS Architect でマークする必要があります。これを実行するには、[非アクティブ] (AT_DEACT) 属性を使用します。この属性はオブジェクトと接続線の両方に設定できます。属性が設定されると、オブジェクトまたは接続線は次にインポートを実行する際に非アクティブになります。

もちろん、これが実行されるのは、ARIS Architect エクスポート ファイルにオブジェクトと関係が含まれている場合のみです。ARIS Risk & Compliance Manager へのインポートが正常に実行されたら、ARIS Architect でオブジェクト/接続線を削除できます。インポートが実行される前にオブジェクト/接続線が ARIS Architect で削除された場合は、これらを ARIS Risk & Compliance Manager で手動で非アクティブにできます。